



BLUE SKY

～自ら学び 心豊かな子どもに～

第5号

令和7年7月25日(金)
コタキナバル日本人会附属
コタキナバル日本人学校
TEL 088-422297



文責：校長 渡會 寛之

大いに「HUSTLE発する！」した1学期終了

7月25日(金)あつという間の1学期が終了しました。今年度児童生徒が考えたキャッチフレーズは「やっちゃえKJS～敬意・情熱・創造力～」でしたが、勉強や学校行事等の活動に自分たちの「～したい」をのせて、二の足踏むことなく、チャレンジすることができたでしょうか？

今年もKJSでは、授業をはじめ運動会等各種行事を企画実践していく中で、自分たちで考え、自分たちで実践していく学習活動を継続してきました。少人数であることのマイナスを自分たちのアイデアや工夫でプラスに変え、一人一人を大事にしたKJSらしい取組が見られたように思います。

もちろん、その分大変なこともあったかと思いますが、「HUSTLE発する！」で毎日を充実させてきた人たちにとっては、本当に自分の成長を実感できる充足した1学期だったのではないのでしょうか。来学期も授業はもちろん宿泊学習はじめ学習発表会等各種行事において、お互いを思いやり、情熱をもって創造力を働かせた取組を見せてくれるものと期待しています。

それでは、健康と安全に留意し、充実した夏休みを送ってください。来学期スタート時にはさらに成長した姿で会いましょう。

SKKT交流会大成功



7月9日(水)SKKTとの交流学習が行われました。オープニングセレモニーでは、二日前の七夕の行事を紹介し、一緒に短冊に願い事を書き、笹の枝に飾った後「たなばたさま」の歌を歌いました。すぐに仲良くなった子どもたちは、さっそくKJSの子どもたちが用意したアクティビティで日本文化交流です。書道や日本の伝統的遊び、折り紙、ビー玉チャレンジなどを、英語で説明しながら一緒に行くと、あちこちから大きな歓声が聞こえてきて、学校全体が楽しい雰囲気に包まれました。アクティビティでおながすいたところで一緒にお弁当を食べると、さらに仲良くなって日本の食文化を発信していました。クロージングセレモニーでは、SKKTの子どもたちからダンスが披露され、勇壮かつ優美な踊りに皆大きな拍手を送っていました。最後に記念品等の交換もあり終始友好的なムードで交流学習を終えることができた現地校交流会。昨年度と比べても、子どもたちの発信力、判断力、行動力が大きく育っていることを感じました。このような体験的な学習を今後も積み重ねていくことで、KJSの子どもたちは世界に羽ばたく人材に育つものと確信しています。

合格おめでとう！

先般行われました英語検定で以下の児童生徒が合格しました。普段の努力が着実に力となっている証拠だと思います。おめでとうございます。第2回目の英語検定でも頑張りましょう！

【英検合格】

3 級 M.F(G7) N.S(G8) R.K(G6) 4 級 S.F(G4)

頑張ったEO

7月16日(水)EOの時間に1学期の頑張りをみんなで確かめ合うクエストが行われました。授業だけでなく、普段の生活や家庭で行った英語学習の積み重ねが、4技能それぞれで評価され、ゲームを通して発揮されました。このEOの実践は、英語学習を自ら行う仕組みとして非常に有効に作用していると実感しています。本校の教育目標である「自ら学ぶ子ども」の育成にも大いに資する取り組みであると思われてなりません。



1学期交流会開催

7月21日(月)1学期の全校交流会が行われました。チームに分かれての絵伝言ゲームでは、迷画家さんたちの傑作作品に皆で大笑いしました。また、震源地ゲームでも、鬼にばれないようにいろんなポーズをとりながら、皆笑いをこらえるのに必死でした。夏休み前のちょっとしたひと時でしたが、KJSの子どもたちの仲の良さや、企画実行していく力がついてきていることなどが垣間見られた素敵な時間だったと思います。



KJS「海の日 OCEAN DAY」で地球環境について考える



7月23日(水)日本の祝日である21日の「海の日」にちなんで「KJS海の日 OCEAN DAY」を開催しました。朝から海にちなんだ授業や講話、そして実際にビーチに出かけてのクリーンアップ活動と大忙しの日でしたが、その学習活動の中で子どもたちは改めて地球環境を守る事の大切さを感じていたようでした。まず最初に行われた図工・美術の時間には自分たちが守りたい海の姿を、菊地先生の指導する独特な手法でキャンバスに描きました。出来上がった作品は子どもたちの思いがギュッと詰まった素晴らしい宝物になりました。



続いて行われたFISH TANK BAHさんからの講義では、様々な美しい熱帯の魚たちについて教えていただき、この魚たちを守りたいという気持ちが一層強くなりました。

最後のビーチクリーンアップでは、我々の活動に賛同してくださったInstitut Sinaranの職員や学生さん、FISH TANK BAHさんたちと共に活動することで、前回以上のごみを拾うことができ、子どもたちの顔も満足感で一杯だったように思います。「宇宙船地球号」の乗組員として貴重な貢献をした子どもたちに、大きな拍手を送りたいと思います。

